Microsoft

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

November

2024, 11

セキュリティ対策とクラウドの利活用が導くデジタル改革

INDEX

Featured Topic

1. Power BI を活用してみませんか？～EBPMの推進～

2. J-LIS フェアで大反響！自治体業務でも活躍する Microsoft 365 Copilot シナリオ

3. アナログ業務の救世主！ AI 技術で手書き資料をスマートに管理

4. 「医療機関向けクラウドサービス対応 セキュリティリファレンス (2024 年度)」改訂版

5. ゼロトラストセキュリティで実現する 先生方が働きやすい環境づくり

News

1. 中央省庁などを対象とした Power Apps ハンズオンの実施

2. Microsoft クラウド活用コミュニティ「MICUG」 自治体向け新コンテンツ随時更新中！

3. 「公共機関向け Microsoft AIロードショー」順次開催中

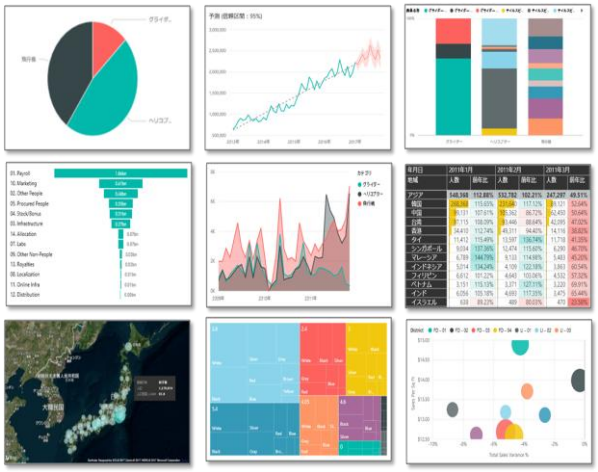
Power BI を活用してみませんか？
～EBPMの推進～

■強力なBusiness Intelligenceツール

Power BI は世界で最も利用されているBusiness Intelligenceツール（以下、BIツール）の一つであり、Microsoftは2024年6月Gartner® Magic Quadrant™ for AnalyticsおよびBusiness Intelligence Platformsにてリーダー層に位置づけられる強力なサービスです。

Power BI - データの視覚化 | Microsoft Power Platform

Power BI はクラウドやオンプレミスなど様々な場所に蓄積された業務データを Power BI という分析プラットフォーム上でマッシュアップし、分析や可視化を行うだけでなく、そこから更に、Teams や SharePoint 、Webサイトなど多様な場所に共有することで、ユーザーが頻繁にアクセスする場所からインサイトを発見することができます。つまり、Power BI は社内のデータを集め、分析し、アクションに繋げるための架け橋となります。



Power BI で提供される標準／カスタムビジュアル

■EBPMでの活用

政府としても推進しているEBPM（Evidence Based Policy Making）においても Power BI が活用されております。例えば、デジタル庁様においてはデータと根拠に基づいた政策判断・効果の可視化推進として、『政策ダッシュボード』を準備されておりますが、中央政府や自治体含め、多くの行政機関にてEBPMの取り組みがなされております。

政策ダッシュボード一覧 | デジタル庁 (digital.go.jp)

また、政府共通の標準的な業務実施環境として進められているGSS（ガバメントソリューションサービス）では、Microsoft 365 E5 が採用されておりますが、Power BI Proライセンスが含まれていることはご存じでしょうか？最大限にDXを進める上でも、GSSにて提供される Power BI を活用することも重要な選択肢の一つだと考えます。

Microsoft 365 Enterprise のプランの比較 | Microsoft 365

■ Power BI とAzureの連携によるメリット

Power BI は単体でも強力なBIツールですが、Azure上に蓄積されたデータと連携することで、多くのメリットを享受することができます。

①コネクタ標準搭載

Power BI にAzureと接続するためのコネクタが標準搭載されているため、コネクタを別途作成する必要がなく、接続が容易。

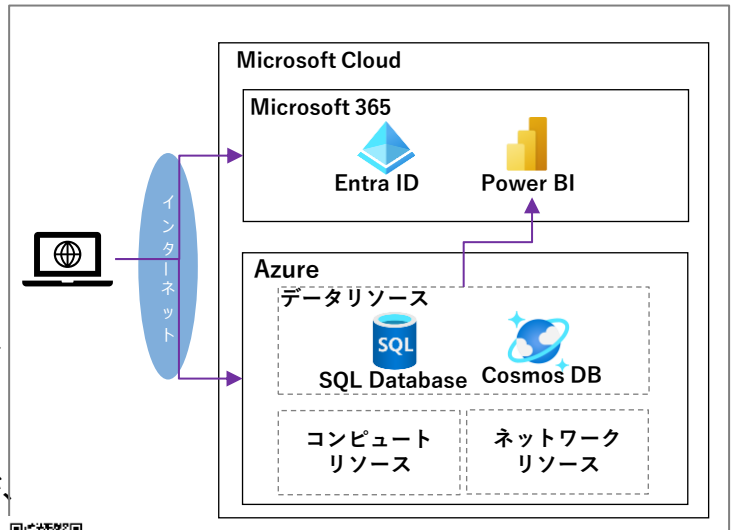
②セキュアな通信

Power BI と Azure 間の通信について Azure のグローバルネットワーク内のプライベートな通信に留めることが可能。

③ Azure エグレスを回避

通常 Azure と他社BIサービスを連携する際にはAzure エグレス（データの移動コスト）がかかる可能性があるが、Power BI テナントと Azure データソースが同じリージョンの場合、Azure エグレス費用を回避可能。

Power BI と Azure エグレス - Power BI | Microsoft Learn



Power BIとAzureの連携アーキテクチャ構成例

著: 官公庁本部　平山貴之

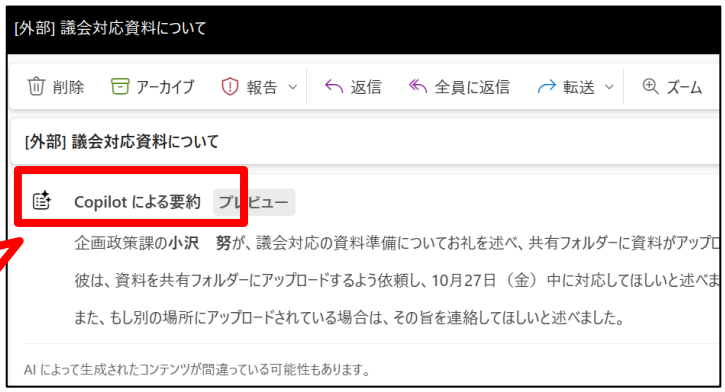
J-LIS フェアで大反響！
自治体業務でも活躍する Microsoft 365 Copilot シナリオ

普段お使いの Office アプリに生成 AI を搭載した Microsoft 365 Copilot（以下、Copilot ＝ コパイロット）。自治体職員様が日々の業務で手間と時間を要する作業に対し、かゆい所に手が届く AI アシスタントとしてご関心を寄せて頂いています。ここでは 10月9日(水)・10日(木) に幕張メッセ展示ホールで開催された J-LIS フェアにて反響のあった話題の Copilot を活用した「コパ活」シナリオをいくつかご紹介します！

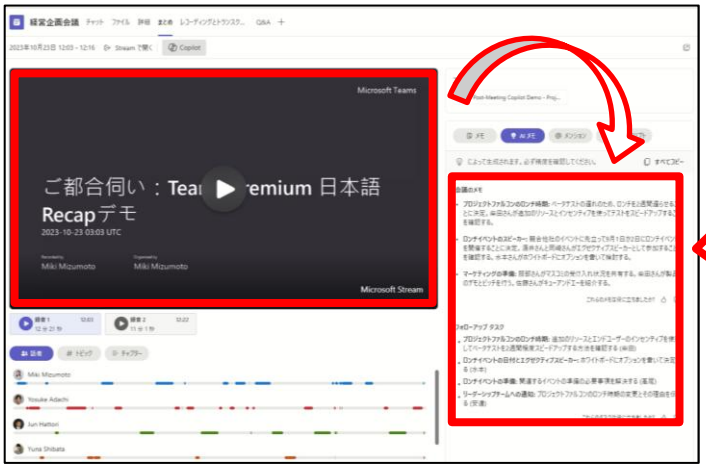
「未読メールの山」ストレスとおさらば！

打合せの離席後や休暇明けの朝、メールボックスを開くと膨大な未読メールの山に愕然とした…なんてご経験、ないでしょうか。「長いメールスレッドの要点を一瞬で教えて欲しい」「未読メールの中で優先順位の高いものから捌きたい」そんなお悩みは Copilot にお任せください。

Outlook アプリ画面上部の「Copilot による要約ボタン」を押すだけで、長いメールスレッドがたった数行に要約され効率よくメールの内容を把握できます。



会議の議事録は人ではなく AI へ任せる時代へ



会議のたびに議事録作成に多くの時間を取られている…。欠席した打合せの議事録を見ても欲しい情報が見つからない…。そんな時にも Copilot が皆様のお役に立ちます。

Teams 会議を録画すると、自動的に AI が議事録を生成してくれます。議事内容はもちろん、「次に誰が何をするのか」といったネクストアクションまでまとめてくれます。また生成された議事録より詳しい情報が欲しい際は、Copilot に追加質問が可能です。
会議に参加した人が見返すだけでなく、会議を欠席した人も後からキャッチアップに活用できます。

「あれどうなっていたかな？」気軽に AI 秘書に質問

人事規程や休暇規程といった毎日確認する訳ではないが必要な時にすぐ参照したいもの、あるいはどこかに保存したはずなのにすぐに見当たらないファイルなど、探すのに時間がかかることがあります。そんな時は、「AI 秘書」である Copilot に気軽に聞いてさくっと解決しましょう。

「給与振込口座の変更方法を教えて」のように自然言語で質問すれば、Copilot が回答と併せて引用元のサイトやファイルを教えてくれます。
また「自分が返信しなければいけないメールを教えて」等、優先業務の洗い出しも Copilot に力を借りることができます。

著: 自治体戦略本部　髙橋知里

アナログ業務の救世主！
AI技術で手書き資料をスマートに管理

AI Builder は、プログラミングの知識がなくても簡単に、生成AI技術 をシステムに組み込むことができるサービスです。用意された生成AIモデルを活用することで、組織内の文書や画像から必要な情報を自動的に抽出し、要約や分析を行うことができます。これまで手動で行っていたデータ入力や分析を生成AIに任せることにより、作業効率を大幅に向上させることが可能です。

【AI Builderでできること】

- ドキュメント処理（請求書処理、テキスト認識）
- 画僧の処理（画像の説明を生成する、物体検出）
- 表形式データを操作する（履歴データから予測する）
- テキストの処理（感情分析、キーフレーズ抽出）
- 生成AI機能を構築する（テキストを要約、分類する）

手書きの請求書から自動でデータを抽出する！

どの組織でも、請求書やレシートなどの書類から手作業でExcelやシステムにデータを入力することがあるかと思います。AI Builder を活用することで、必要な情報を自動的にシステムに入力できるデータフォーマットで抽出できます。また、最新の生成AI技術を使用すれば、手書きの書類や異なるフォーマットの書類からも自動で正確に情報を取得できます。これにより、書類のフォーマットに依存することなく、入力ミスやデータ転記の負荷軽減を実現できます。

①手書きの請求書をスキャン
②**#請求書番号#電話番号#請求日#合計金額#**請求明細の項目を出力するプロンプトを送信
③赤枠のようにデータを抽出することができます。

手書きメモをデータ化し要約する！

外出先で手書きのメモを取り、事務所に戻ってからそれをパソコンに入力して報告書を作成することはありませんか？また、手書きのアンケートを一枚一枚手で入力してExcelに転記する作業を行ったことはありませんか？AI Builder を活用すれば、紙に書かれた文字を自動的にデジタル化し、入力にかかる時間を大幅に短縮できます。さらに、要約機能を使うことで、報告書の作成をより効率的に行えるほか、最新の生成AI機能を利用して感情分析を行うことも可能になります。

①手書きメモを読み込む
②文字をデジタル化し、手書きメモを変換する
③ChatGPTで要約する

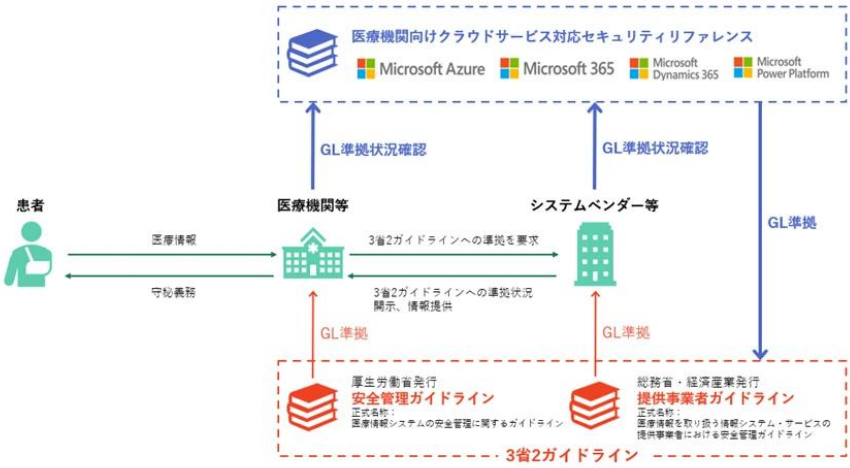
今後、AI Builder にマルチモーダル技術が追加されることで、テキストや画像など異なるデータ形式を同時に処理できるようになります。これにより、「これを実行して」「あれを見せて」「このように対応してください」といった具体的なリクエストが可能になります。例えば、自然災害が発生した際の緊急対応では、災害地域の画像と住民の避難状況に関するテキスト情報を組み合わせることで、救援活動をより効率的に行えるようになります。具体的には、被災地域の航空写真と避難者リストを統合し、支援が最も必要な場所を迅速に特定できることが期待されています。

著：公共・社会基盤統括本部　西谷 亜希子，　ビジネスソリューション第一技術本部　坂本 駿太

「医療機関向けクラウドサービス対応 セキュリティリファレンス (2024 年度)」改訂版

3省2ガイドラインである厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」と経済産業省・総務省の「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」の要求事項にマイクロソフトのクラウドサービスが従っていることをまとめた『医療機関向けクラウドサービス対応セキュリティリファレンス（2024年度）』を公開しました。本リファレンスは2021年度に公開した内容を富士ソフト株式会社の支援を受けて作成した改訂版となります。このリファレンスを参考にし、医療機関や医療システムベンダー等が適切なセキュリティ対策を講じ、日本国内の医療システム全体のセキュリティを強化することができると考えています。詳しくはページ下部のURLをご参照ください。

本リファレンスの対象となるガイドライン



事業者としての日本マイクロソフトが準拠すべき項目

クラウドサービスの利用において、想定されるリスクに対応するためにはお客様が実施しなくてはならない対策と、クラウドサービスプロバイダーが対策する対策とに責任が分かれます。一般にこれを責任共有モデルや責任分界などと呼び、お客様側ではクラウドサービスプロバイダー側が実施している対策が利用者としての期待に即した内容となっているかをご契約、ご利用前に確認し、適切なクラウドサービスを選択する必要があります。この確認を適切に実施していただくため、ガイドラインにより示される安全対策に関し、マイクロソフトが講じている対策の実施状況等を第三者監査の結果等を根拠とし「マイクロソフトが講じる安全管理措置について(想定されるリスクとリスクに対応するための製品・機能)」にまとめています。

サービス利用者が講じるべき項目

クラウドサービスプロバイダー側で基盤となるインフラや物理施設等に十分な安全対策が実施されていても、お客様がリスクに対して適切なサービスが利用されていなければそこにセキュリティ上の問題が発生します。たとえば適切なID管理や不正なアクセスへの対応や権限の管理、内部不正などはそれらの例となりますが、そのため想定されるリスクに対して有効な対策を講じることが可能なサービスを「利用可能なマイクロソフトの製品・サービスに関する情報(コントロールマッピング)」にまとめ、お客様が適切なサービスを選択しやすい環境となるようデータ提供しています。

マイクロソフトクラウドの「医療機関向けクラウドサービス対応セキュリティリファレンス (2024 年度)」改訂版公開のお知らせ - マイクロソフト業界別の記事

著: ヘルスケア統括本部　村澤直毅

ゼロトラストセキュリティで実現する先生方が働きやすい環境づくり

先生方が働きやすい環境を整えることで、子どもと向き合う時間を創出

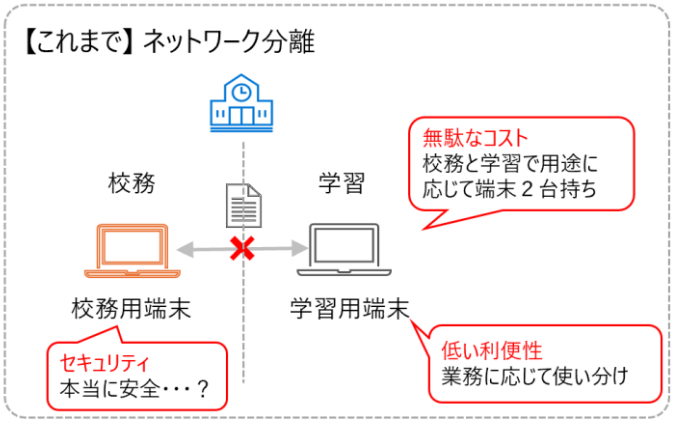
文部科学省が推進するGIGAスクール構想によって、子どもたちのために一人1台端末が整備され、クラウドサービスの利用が加速し、日々の学びのあり方が大きく変わりました。

文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」は改訂を重ね、令和4年の改訂では、クラウドサービス利活用を前提に、ネットワーク分離を必要としない認証によるアクセス制限を前提とした目指すべき構成が明確化されています。また、令和5年には「教育DXに係るKPIの方向性」が公開され、現在全国の自治体で校務基盤のクラウド化の検討が急速に進んでおります。

マイクロソフトは、安全で先生方の働きやすい環境を整えることこそが、業務負担の軽減と、子供たちと向き合う時間の創出につながると考えております。

ここからは、新しいセキュリティの考え方とその実現方法をご紹介します。

これまでの教育現場と課題



これまで多くの教育委員会では、境界型セキュリティの考えに基づき、ネットワークを校務系と学習系の２系統に分離し、成績情報などの機微情報は校務系で隔離するという構成が採用されてきました。

しかし近年では、GIGAスクール構想を皮切りに、学習系ではもちろん、校務系でもクラウド利活用が急速に進み、より高度なセキュリティ対策が必要になっています。

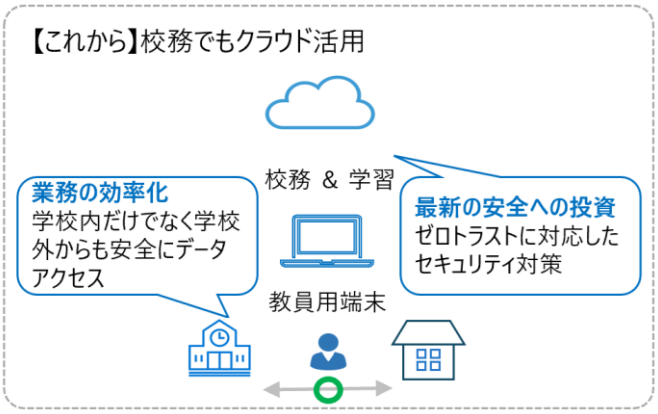
このような状況下で、先生方は２つの環境を使い分けなくてはならない不便さを強く感じ、教育委員会はネットワークの増強や複数端末の整備の必要性に迫られコストの最適化を図ることが難しくなっています。

ゼロトラストで変わる教育現場

ゼロトラストセキュリティは、従来の境界型セキュリティとは異なり、ネットワークの境界を越えた柔軟で高度なセキュリティ対策を可能にします。ゼロトラストは、信じること（トラスト）をしない（ゼロ）にすることを前提に作られています。

これまでは、学校や校務用PCといった、特定の場所にある機密情報を守ることで、安全性の担保を行ってきており、先生方が意識して使い分けることを前提とした仕組みでした。

ゼロトラストの考えに基づき、最新の技術を駆使した、先生方のリテラシーに依存しない仕組みをつくることで、先生方は、場所や時間に捉われずに安心して利用できる環境を実現できます。



ゼロトラストセキュリティで実現する先生方が働きやすい環境づくり

先生方が働きやすい環境を整えることで、子どもと向き合う時間を創出

ゼロトラストで守るべきもの

守るべきもの

ID

端末,アプリ,情報資産を利用する際の本人確認をするための身分証になります。第三者によるなりすましを防ぐ必要があります。

端末

貸与されている端末だけでなく、個人端末まで含めたあらゆる端末を保護する必要があります。

情報資産（データ）

ファイルのようなあらゆるデータの漏洩を防ぐ必要があります。

アプリケーション／メール

学習、校務アプリといった様々なアプリを負担なく守る必要があります。

✖

想定されるリスク

- 悪意のある攻撃者
- 学校関係者による攻撃（教職員・児童生徒）
- 学校関係者の過失（教職員・児童生徒）

ゼロトラストで守るべきものは、大きく分けて４つあり、リスクは内的・外的なものが考えられます。セキュリティというと、外的なリスクに目を向けがちですが、内的なリスクにも目を向けることも重要です。マイクロソフトでは、それぞれの要素に対する対策を提供しております。

ID

認証（本人確認）時に複数の要素を併せて確認する多要素認証
場所やデバイスなどの条件によって、アプリへのアクセスを制御する条件付きアクセス

端末

ウイルス対策ソフトの別買い不要！OS標準機能でウイルス侵入前の予防の「ウイルス対策」
万が一に備える！ウイルス侵入後にはAI技術を活用した「自動検知・自動対処（EDR）」

情報資産（データ）

万が一、機微情報ファイルを誤送信しても情報漏洩をさせない「暗号化」
ポリシーを反映した秘密度ラベルの設定のみ！先生方にもわかりやすい仕組みで実現できる

アプリケーション/メール

URLや添付ファイルもサンドボックスで開くから安心！フィッシング対策でなりすましを防止
アプリのリスク評価に沿ったアプリのコントロールやクラウドアプリの監視・異常検知

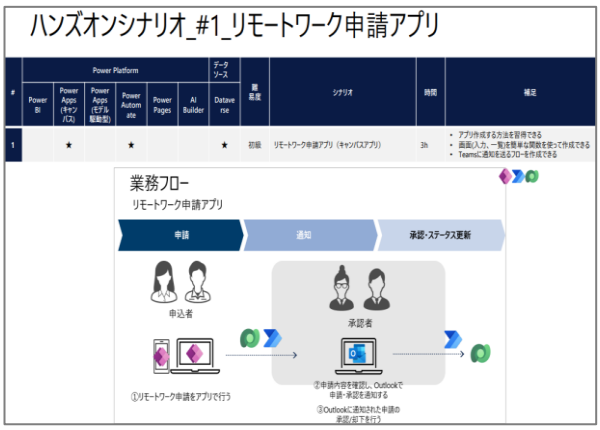
☞教育におけるゼロトラストについて更に詳しく知りたい方へ
ゼロトラストセキュリティ | マイクロソフト 教育機関向けソリューション

著: 教育戦略本部　石田楓子

News #1

中央省庁などを対象とした Power Apps ハンズオンの実施

9月下旬に中央省庁のお客様を中心に Power Apps のハンズオンを開催し、合計約60名の方にご参加頂きました。行政のDX化を進める上でローコードツール等の活用が期待されている中、実際に”リモートワーク申請アプリ“の開発を体験頂きました。その後お客様が現状抱える課題（例：Excelマクロからの脱却など）についても意見交換を行われました。



News #2

Microsoft クラウド活用コミュニティ「MICUG」自治体向け新コンテンツ随時更新中！

Microsoft Cloud を話題にした交流を目的とするエンタープライズコミュニティ「MICUG（マイカグ）」では、クラウドや AI の活用を検討される自治体様向けのコンテンツを随時更新しております。
10月9日(水)・10日(木)に開催された J-LIS フェアで弊社がご紹介した Microsoft 365 Copilot の活用シナリオについても、近日全編を公開予定です。
MICUG は民間企業様はもちろん公共機関のお客様にも広くご活用頂いております。ぜひご参加ください。

MICUG（マイカグ）

News #3

「公共機関向け Microsoft AI ロードショー」順次開催中

全国47都道府県の公共機関の皆様向け「Microsoft AI ロードショー」を順次開催しております。
AI を活用したマイクロソフトの公共機関向け最新ソリューションのご紹介から、教育委員会・教育機関の皆様へ GIGA 第 2 期に向けたポイントをご紹介します。実際に公共機関の現場で活用できる AI の体験ブースも 設置いたします。 お住まいの地域での開催の際にはぜひお越しください。

写真は、金沢での様子です

編集後記

日本マイクロソフト株式会社
執行役員 常務　パブリックセクター事業本部長
佐藤 亮太

引き続きAIは進化を続けており、社会課題の解決や我々の生活をより豊かにする技術として期待されています。一方でＡＩは様々なシステムやソリューションに組み込み、そのデータと組み合わせる事で初めて真価を発揮しますし、これは同時により強固なセキュリティの重要性を改めて浮き彫りにもします。

これまでの「かけはし」5月号と8月号では生成AIそのものに焦点を当ててきましたが、今月号ではマイクロソフトの生成AIと連携して使えるソリューションや、その前提となるセキュリティに関する内容を特集しています。

ソリューションという観点では例えば、生成AIを働き方改革の基盤に組み込むことで業務の効率化が可能です。Teams上で生成AIを活用し、あらゆるアプリを呼び出せるようにすることで、分散していたアプリを統合的に活用・管理できます。

生成AIは、このような統合基盤の構築をさらに推進し、個別システムを有機的に連携させることで、効率性を最大化する事が出来ますし、これによりDXを更に深めた先にあるAIトランスフォーメーション（AX）が実現可能となります。また、こういった基盤を構築していく上では強固なセキュリティを前提として設計する事は必須要件となります。

特にDXが加速する学校や自治体、病院などの地域を支える組織からは、セキュリティ強化とDX・AXの基盤強化のご要望が増えていますので、様々な事例等も継続して皆さまにご紹介をしていければと考えています。

今後もマイクロソフトは、生成AIを単に導入するだけでなく、お客様に寄り添い、より安心して活用できるDX・AXの実現に向けた活動をして参ります。今後とも、変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

この秋も自治体様向けの講演や製薬企業様向けのワークショップを実施し、
マイクロソフトからAI時代の様々な情報をお伝えいたしました。

かけはし編集委員：
廣兼佑亮、増田穣志、古橋薫

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

Microsoft